

子供の成長を支える教師と保護者の信頼関係づくり

教育相談課 長期研修員 黒柳 孝江

1 主題設定の理由と研究目的

教師は日々、学級の子供一人一人を理解し深い愛情をもって子供の指導に当たるよう努力している。また、保護者も我が子の健やかな成長を願い養育しようとしている。集団生活が中心となる学校と、個人の生活が中心となる家庭の双方が子供の成長のために共通の意識をもって協力していく姿が望まれる。

しかしながら現実の場面を考えると、教師と保護者には子供を良くしよう、伸ばそうという共通の思いがあるが、教師が保護者の願いに耳を傾けるゆとりをもたないまま、善かれと思って子供や保護者に助言をして、結果として保護者との間で意思の疎通がうまくいかなくなる場合もある。さらには、それが発端となり、保護者が不信感を抱くことにつながってしまうこともあるのではないだろうか。

人と人との信頼関係というものは始めから存在しているものではなく、相互の働き掛けによって築かれていくものであるが、教師と保護者の信頼関係に関しては、教師からの働き掛けによって保護者が教師を信頼することで築かれる場合が多い。

そこで、教師と保護者の信頼関係の実態を把握し、保護者理解を深めるための校内研修会を行い、その成果を日常の保護者への働き掛けに生かしていくことが、教師と保護者の信頼関係づくりにつながると考え、この主題を設定した。

2 研究仮説

教師と保護者の信頼関係の実態をアンケート調査により把握し、校内研修会で保護者とのかわり方を学ぶことによって、保護者を理解しようとする意識を高め、保護者への働き掛けに生かしていけば、教師と保護者の信頼関係づくりにつながる。

3 研究方法

(1) 事前アンケート調査

(保護者・学級担任)(7月実施)

(2) 信頼関係づくりのための校内研修会の実施(学級担任)(8月・9月・11月)

(3) 日常における保護者への対応の分析

(学級担任)(9月～11月)

(4) 事後調査(学級担任)(11月実施)

ア 保護者との信頼関係に関する教師の振り返り

イ 事後アンケート調査

(5) 考察

【資料1】研究の計画

		研究内容		
月	アンケート調査	校内研修会 (対象:学級担任)	日常における保護者への対応の分析	
6	事前アンケート作成			
7	事前アンケート調査実施 (対象:学級担任・保護者)			
8	事前アンケート調査分析	第1回 事前アンケート調査の報告 体験実習		
9		第2回 構成的グループエンカウンター 実習		「振り返りシート」 (対象:学級担任)
10		第3回 見方を変える・多面的に見る実 習		
11		事後調査		「聞き取り調査」 (対象:抽出教師)
	事後アンケート調査実施 (対象:学級担任)			
12			「保護者との信頼関係に関する教師の振り返り」の実施 まとめ・考察	

以上の方法を資料1に示す研究の計画に基づき実施する。研究対象は在籍校A小学校の1年生から6年生の学級担任21人と保護者687人とする。

A小学校は全校児童900人余りの大規模校である。町内に小学校、中学校が各1校ということもあり、地域は学校の行う教育活動に関心が高く協力的である。近年、他地域や海外からの転入が増えるにしたがい、保護者の価値観も多様化しており、学校や個々の教師の教育活動に対する期待と関心はより一層高まってきている。

4 研究内容

(1) 事前アンケート調査(7月)

ア 目的

教師と保護者との信頼関係の実態を把握するためにアンケート調査(研修員が作成)を学級担任と保護者を対象に実施した。

【資料2】 学級担任アンケート

調査 教師と保護者の信頼関係について

項目	回答方法
1 子供の成長を支える上で「教師と保護者の信頼関係づくり」は大切だと思いますか。	4者選択
2 あなたはどのようなときに「保護者から信頼されている」と感じますか。	自由記述
3 どうすれば「保護者から信頼される」と感じますか。	自由記述
4 「教師と保護者の信頼関係づくり」のために、どのような工夫をしていますか。(家庭訪問・個人面談・家庭への連絡・学校公開・学級懇談会・子供へのかかわり)	自由記述
5 「教師と保護者の信頼関係づくり」のために、保護者に期待することがありましたらお書きください。	自由記述

調査 保護者から子供のことで気になっていることや困っていることを聴くときについて

項目	回答方法
6 保護者から子供のことで気になっていることや困っていることを聴く場面についてお聞きします。あなたの対応の様子で当てはまると思う番号を で囲んでください。	
話しやすい雰囲気をつくっている。	4者選択
保護者の話をじっくり聴いている。	4者選択
保護者や子供の気持ちを大切にしている。	4者選択
保護者や子供の困っていることを理解するようにしている。	4者選択
保護者や子供の良いところを見つけるようにしている。	4者選択
解決に向けたアドバイスをしている。	4者選択
保護者はあなたと話して満足している。	4者選択

注) 4者選択は(とても思う・少し思う・あまり思わない・思わない)の中で選択する。

イ 方法及び内容

調査及び調査の2部構成とし、内容は資料2と資料3に示すとおりである。

調査では、教師と保護者の信頼関係について、両者のとらえ方(意識)や相互の期待などについて

【資料3】 保護者アンケート

調査 教師と保護者の信頼関係について

項目	回答方法
1 子供の成長を支える上で「教師と保護者の信頼関係づくり」は大切だと思いますか。	4者選択
2 あなたが先生や学校を信頼できると思うのはどんなときですか。また、それはどんな理由からですか。	自由記述
3 あなたが先生や学校を信頼できないと思うのはどんなときですか。また、それはどんな理由からですか。	自由記述
4 子供の成長を支える上で「教師と保護者の信頼関係づくり」のために、あなたが心掛けていることがありましたらお書きください。	自由記述
5 「教師と保護者の信頼関係づくり」のために、先生や学校に期待することがありましたらお書きください。	自由記述

調査 保護者が子供のことで気になっていることや困っていることを話すときについて

項目	回答方法
6 お子さんのことで気になっていることや困っていることを話したことがありますか。	2者選択
(1) 「話したことがある」人にお聞きします。そのときの様子について当てはまる番号を で囲んでください。	
話しやすい雰囲気をつくっていた。	4者選択
話をじっくり聴いてもらえた。	4者選択
あなたやお子さんの気持ちを大切にしてもらえた。	4者選択
あなたやお子さんの困っていることを理解してもらえた。	4者選択
あなたやお子さんの良いところを見つけてもらえた。	4者選択
解決に向けたアドバイスがもらえた。	4者選択
話して良かったと思った。	4者選択
(2) 「話したことがない」人にお聞きします。「話したことがない理由」について当てはまる番号を で囲んでください。(複数回答可)	
気になっていることや困っていることがないから。	番号選択
先生以外に相談する相手がいるから。	
先生に迷惑を掛けたくないから。	
先生が忙しそうで聴いてもらえそうにないから。	
話しやすい雰囲気でないから。	
先生に話しても理解してもらえそうにないから。	
先生に相談しても解決しないから。	
その他	

注) 4者選択は(とても思う・少し思う・あまり思わない・思わない)の中で選択する。
2者選択は(話したことがある・話したことがない)の中で選択する。

5項目（選択1、自由記述4）の設問で回答を求めた。

調査では、学校の教育活動の中で教師と保護者の信頼関係に大きく影響を与えたり、実際に信頼関係が構築されたりする場面でもある「保護者が子供のことで気になっていることや困っていることを話すとき」に焦点を当て、その際の教師側の「聴く」姿勢や対応について選択肢で回答を求めた。調査用紙は記入者が特定されないように無記名とした。なお、保護者の調査用紙は7月初旬に児童を通して配布し、回収に当たっては同時配布の封筒に入れて封をし、学級内に設置した回収袋に提出するよう依頼した。回収率は学級担任100%、保護者85.5%であった。

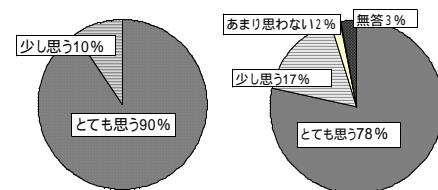
ウ 調査結果

(ア) 調査 教師と保護者の信頼関係について

設問1の回答から、教師も保護者も子供の成長を支えるためには、両者の間に信頼関係づくりが重要であると考えていることが分かる（資料4）。

設問2から5については、自由記述の回答を内容別に整理した（資料5・7）。

【資料4】「信頼関係づくりは大切か」
学級担任 保護者



【資料5】保護者アンケート 調査 - 2 「先生や学校を信頼できると思うのはどんなときか」(人)

順	回答内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計 (%)
1	教師が子供のことをきちんと理解してくれる。	6	14	11	21	23	22	97 (17%)
2	学校での子供の様子を伝えてくれる。	14	4	19	11	18	29	95 (16%)
3	相談したとき解決につながるアドバイスをしてくれる。	5	7	7	6	9	12	46 (8%)
4	子供が教師に好感をもっている。	8	7	5	7	9	6	42 (7%)
4	親身になって相談に乗ってくれる。	11	5	3	7	7	9	42 (7%)
6	話をじっくり聴いてくれる。	4	3	4	5	13	11	40 (7%)
7	相談すると素早く対応してくれる。	3	4	5	6	6	2	26 (4%)
8	子供のよいところを見つけてくれる。	3	1	1	5	4	6	20 (3%)
9	子供のために熱心に取り組んでいる。	8	2	0	2	1	6	19 (3%)
10	指導方針を説明してくれる。	1	1	1	1	1	2	7 (1%)

注) 上位10項目を集計。
()内の数字は保護者585人の複数回答による回答率。

保護者アンケート設問2「あなたが先生や学校を信頼できるのはどんなときですか」では、「教師が子供のことをきちんと理解してくれる」17%、「学校での子供の様子を伝えてくれる」16%という内容が上位を占めた（資料5）。

保護者アンケート設問5「『教師と保護者の信頼関係づくり』のために先生や学校に期待することがありましたらお書きください」では、「学校での子供の様子を保護者に伝えてほしい」18%、「一人一人の子供を良く見てほしい」7%という結

【資料6】保護者アンケート 調査 - 2 「先生や学校を信頼できると思うのはどんなときか」の保護者回答例

1	教師が子供のことをきちんと理解してくれる。 ・ 子供の小さな変化にも気付けて声を掛けてくれると常に子供の姿を見守ってくれているなあと感じる。 ・ 先生と話をしている子供の表面だけでなく内面まで見てくれるなあと思ったとき。
2	学校での子供の様子を伝えてくれる。 ・ 学校での様子が良いことでも悪いことでも伝えてくれたとき。 ・ 個々面談での先生の話や本読みカードの先生からの連絡で学校の様子を教えてもらえるときちゃんと見てもらっているなあとほっとする。
3	相談したとき解決につながるアドバイスをしてくれる。 ・ 不登校気味であったとき、子供に合わせた対応や適切な言動で助けてくれたとき。 ・ 子供の学習面や生活面で心配があったとき、話を聞いてもらえるだけでも気持ち楽になるが、何らかのアドバイスをしてもらえるとう安心する。
4	子供が教師に好感をもっている。 ・ 子供が「学校は楽しい。」と言うとき、一人一人目を掛けてもらっているんだなあと思う。 ・ 子供が学校や先生の話をよくするとき、子供が先生に話しやすく、先生もそれに応えてくれているんだと思い、安心する。
5	親身になって相談に乗ってくれる。 ・ 悩みごとなどを子供や親が相談したとき適切に対応してくれて、親身になって話を聴いてくれる。 ・ 去年子供のことで相談したときとても親身になって考えてくれた。学校生活でも子供にいつも以上に目を掛けてくれてうれしかった。

注) 保護者の記述を内容別に整理・分類。

果で、上位内容は設問2とほぼ同様の傾向を示した(資料7)。

【資料7】保護者アンケート調査 -5 『『教師と保護者の信頼関係づくり』のために、先生や学校にどんなことを期待するか』(人)

順	回答内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計 (%)
1	学校での子供の様子を保護者に伝えてほしい。	14	13	17	18	26	20	108 (18%)
2	一人一人の子供をよく見てほしい。	8	6	9	5	6	8	42 (7%)
3	教師に話やすくしてほしい。	6	3	1	9	2	5	26 (4%)
4	話をじっくり聴いてほしい。	1	3	3	3	5	2	17 (3%)
5	親身になって相談に乗ってもらいたい。	5	3	2	1	1	3	15 (3%)
6	教師が共通理解で指導に当たってほしい。	3	0	1	2	1	2	9 (2%)
6	子供から慕われるようになってほしい。	3	0	1	0	5	0	9 (2%)
8	先入観できめつけないでほしい。	0	0	0	2	3	3	8 (1%)
8	熱意をもって指導してほしい。	0	1	0	4	1	2	8 (1%)
10	分かる授業を行い子供に力をつけてほしい。	0	0	2	1	2	2	7 (1%)

注) 上位10項目を集計。
()内の数字は保護者585人の複数回答による回答率。

【資料9】学級担任アンケート調査 -3 「どうすれば保護者から信頼されると感じるか」(人)

順	回答内容	回答数 (%)
1	一人一人の子供の様子を保護者に伝える。	7 (33%)
2	子供から信頼される。	4 (19%)
3	欠点ばかりでなく良いところを見つける。	3 (14%)
4	問題が起こったとき素早く対応する。	2 (10%)
4	誠意をもって子供や保護者に接する。	2 (10%)
4	子供にとって分かりやすい授業を心掛ける。	2 (10%)
7	教師間で共通理解し子供の指導にあたる。	1 (5%)
7	子供や保護者の悩みをじっくり聴く。	1 (5%)
7	学級懇談会などで指導方針や熱意を語る。	1 (5%)

注) 上位9項目を集計。
()内の数字は学級担任21人の複数回答による回答率。

保護者アンケート調査からは、多くの保護者が「子供を理解し、子供の様子を保護者に伝える」という働き掛けを教師に求めていることが読み取れ、この点に関しては資料9に示すとおり、教師も同様の傾向にある。ただし、両者の比較からは、「伝える」ことについては共通の認識にあるものの、「子供理解」という点では、保護者の願いが教師の認識を上回っている。資料6に示す子供理解を求めるような保護者の意見を教師は大切にしていきたい。

また、「理解」や「伝える」という内容以外にも、親身になって相談を受けるとや、話をじっくり聴くことなど、教師のカウンセリングマインド(受容・共感的な接し方)を求めている保護者も多く存在しており、資料6・8に示すその具体的な意見を得ることができた。「理解」や「伝える」という内容は、いずれも本来この教師のカウンセリングマインドの上に成り立つものであるとも考えられる。そのためにも、例えば「伝える」にしても、保護者の気持ちを十分に受け止め、保護者を理解した上で「伝える」というように、まず受容・共感的な態度で対応することが、教師と保護者の信頼関係の基盤になるのではないかとと思われる。

【資料8】保護者アンケート調査 -5 『『教師と保護者の信頼関係づくり』のために、先生や学校にどんなことを期待するか』の保護者回答例

1	学校での子供の様子を保護者に伝えてほしい。 ・短くていいので本読みカードに学校での様子を書いてほしい。 ・どんな些細なことでも気になることがあれば家庭に連絡してほしい。 ・子供の体調が悪いと前もって連絡しておいたとき、その日の様子を知らせてくれるとうれしい。 ・学校であったことはよいことでも悪いことでも教えてほしい。
2	一人一人の様子をよく見てほしい。 ・昼休みや休み時間に子供たちと遊んで子供のことを知ってほしい。 ・目立たないおとなしい子供のこともよく見てほしい。 ・ニュースでいじめや自殺などがよく聞かれるのでとてつもない。そうならないように小さなことでも見逃さないで子供をよく見てほしい。
3	教師に話やすくしてほしい。 ・気楽に話せる雰囲気をつくってもらいたい。 ・話ができる機会をつくってほしい。学級懇談会では発言しづらいことが多いので。 ・学校の先生は堅いというイメージがある。
4	話をじっくり聴いてほしい。 ・不安になっている親の気持ちを受け止めてもらって話をとりあえず聞いてほしい。先生にとっては大勢の中の一人でも、親や子にとってはたった一人の先生なので。 ・何でも聴いてほしい。親だって必死で子育てをしているからときには悩んだり、行き詰まったりすることがある。相談したときそれじゃあいけないと指導されると更に落ち込んでしまうので聴いてほしい。
5	親身になって相談に乗ってもらいたい。 ・悩みごとなど子供や親が相談したときに適切に対応してくれたら親身になって話を聴いたりしてほしい。

注) 保護者の記述を内容別に整理・分類。

(イ) 調査 保護者が子供のことで困っていることや気になっていることを教師に話すときについて

資料10・11は資料2・3に示すとおり、相談場面を想定した教師の対応について、保護者と教師に同様の内容の設問で、回答を求めた結果である。教師に「子供のことで気になっていることや困っていることを話したことがある」と回答した保護者427人の内訳を見ると、教師の対応に関する各設問で「と

【資料10】保護者アンケート 調査 -6-(1)「子供のことで困っていることや気になっていることを先生に話すときの様子について」の結果(保護者427人) (%)

	設問	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない	無答
6-(1)-	話しやすい雰囲気をつくっていた。	53	39	7	0	1
6-(1)-	話をじっくり聴いてもらえた。	53	38	7	1	1
6-(1)-	気持ちを大切にもらえた。	50	38	8	2	2
6-(1)-	困っていることを理解してもらえた。	50	37	9	2	2
6-(1)-	良いところを見つけてもらえた。	43	40	12	3	2
6-(1)-	解決に向けたアドバイスがもらえた。	36	40	18	4	2
6-(1)-	話して良かったと思った。	54	34	7	3	2

【資料11】学級担任アンケート 調査 -6「子供のことで困っていることや気になっていることを教師に話すときについて」の結果(学級担任21人) (%)

	設問	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない	無答
6-	話しやすい雰囲気をつくっている。	33	62	5	0	0
6-	話をじっくり聴いている。	71	19	10	0	0
6-	気持ちを大切にしている。	57	38	5	0	0
6-	困っていることを理解するようにしている。	52	38	5	5	0
6-	良いところを見つけるようにしている。	48	48	4	0	0
6-	解決に向けたアドバイスをしている。	33	38	24	5	0
6-	保護者はあなたと話して満足している。	5	71	24	0	0

ても思う」「少し思う」を選択した割合が高く、いわゆる相談場面での教師の対応を好意的にとらえていることが分かる(資料10)。なお、教師も保護者と同様に各設問で「とても思う」「少し思う」の回答の割合が高かった(資料11)。

【資料12】保護者アンケート 調査 -6-(2)「保護者が教師に気になっていることや困っていることを話したことがない理由」 (%)

	話したことがない理由	
6-(2)-	気になっていることや困っていることがないから。	59
6-(2)-	先生以外に相談する相手がいるから。	23
6-(2)-	先生に迷惑を掛けたくないから。	7
6-(2)-	先生が忙しそうに聴いてもらえそうにないから。	5
6-(2)-	話しやすい雰囲気でないから。	10
6-(2)-	先生に話しても理解してもらえそうにないから。	11
6-(2)-	先生に相談しても解決しないから。	13
6-(2)-	その他	7

しかし、保護者アンケートの設問6-(1)- 「気持ちを大切にもらえた」では、「あまり思わない」「思わない」という回答は、教師の2倍、設問6-(1)- 「良いところを見つけてもらえた」では、「あまり思わない」「思わない」は、教師の回答の約4倍になっている。また、設問6-(1)- 「解決に向けたアドバイスがもらえた」では、保護者、教師ともに「あまり思わない」「思わない」という回答が他の設問に比べ多かった(資料10・11)。

注) 保護者150人の複数回答による選択率。

一方、教師に「気になっていることや困っていることを話したことがない」と回答した保護者150人の理由(資料12)を見ると、上位二つの回答は教師の対応の在り方に直接関係するものではないとも思われるが、この回答の背景には実は自らの悩みにふたをしていたり、本来教師に相談すべきことを他で行っていたりするという保護者も少なからずいることを考えなければならない。それ以外の回答状況は教師の対応の在り方を考えさせられるものである。保護者は教師に受容・共感的な接

し方を求めているとともに問題の解決に向けたアドバイスを期待しているようで、このことは資料5に示す調査の結果や前述の資料10・11に示す保護者、教師双方の回答結果とも符合する(資料12)。

保護者アンケート調査の結果からは、保護者の多数は教師の対応を肯定的に見ているものの、その在り方についての課題を整理することができた。解決に向けたアドバイスも保護者がそれを受け入れる基盤には、やはり相談場面に限らず日ごろからカウンセリングマインドをもって保護者と接する教師の姿勢が大切であろう。

(2) 信頼関係づくりのための校内研修会

ア 校内研修会のねらい

保護者と信頼関係を築いていくためには、教師側からの働き掛けが大切であると思われる。事前アンケート調査でも、保護者も教師も子供の成長を支えるためには相互の信頼関係が重要だと回答していた。両者の間に信頼関係がつけられることは様々な場面において考えられる。相談場面など一対一で直接話をする場面では、教師の保護者への対応の仕方によって信頼関係が良くなることもあるし、反対に保護者からの信頼を損なう恐れもある。教師が保護者を共感的に理解していこうと意識するだけで終わるのではなく、実際の保護者対応に生かすために「信頼関係づくりのための校内研修会」を設定した。

イ 研修内容及び実施手順

校内研修会では、事前アンケート調査の報告と保護者対応のスキルアップを目的とした実習を実施した。

アンケート結果の報告は保護者の信頼関係のとらえ方(意識)を教師が把握することをねらいとしている。

【資料13】第1回校内研修会概要(8月9日実施)

事前アンケート調査の報告	
「教師と保護者の信頼関係について」の報告 「保護者から子供のことで気になっていることや困っていることを聴くときについて」の報告	
傾聴実習	
実習1 テーマ「聴く・聴かない」	
ねらい	聴き手の態度や表情が話し手の気持ちに影響を与えることを実感する。
手 順	留意点
・2人組をつくり、聴き手と話し手になる。 ・聴き手は「気が乗っていない聴き方」「威嚇的な聴き方」「前向きな聴き方」を意図的に行う。	・役割を交代し、両方の体験をする。 ・非言語的なかかわりについて説明する。
実習2 テーマ「相手の気持ちを受け入れる」	
ねらい	相手の気持ちを共感的に受け入れる。
手 順	留意点
・2人組をつくり、学級担任役と保護者役になる。 ・役割演技で相手の気持ちを受け入れる。	・役割を交代し、両方の体験をする。 ・個人面談の場面、家庭訪問の場面を設定して行う。

【資料14】第2回校内研修会概要(9月28日実施)

構成的グループエンカウンター実習	
エクササイズ「じゃんけん自己紹介」(自己理解・他者理解)	
ねらい	参加者の心的距離を縮める。
手 順	留意点
・歩いていく途中で出会った人とじゃんけんをし、あいさつをする。	・ウォーミングアップとして実施する。
エクササイズ「さいころトークン」(自己開示・他者理解)	
ねらい	話しやすい雰囲気をつくるために教師自身が自己を開く。
手 順	留意点
・4人1組をつくり、1人ずつ、順番にさいころを振る。 ・さいころの出た目の数によって、示されたテーマの話をする。	・テーマの書かれた用紙を配布する。

【資料15】第3回校内研修会概要(11月9日実施)

見方を変える・多面的に見る実習	
実習1「見方を変える」	
ねらい	短所を個性や長所として見方を変える。
手 順	留意点
・配布した用紙に教師自身が短所だと思っていることを記入する。 ・用紙を他の教師と交換し、短所を個性や長所として見方を変えたものを記入する。	・4人程度のグループで実施する。
実習2「多面的に見る」	
ねらい	保護者の言動を多面的な見方で見る。
手 順	留意点
・「子供の学習に関心がないように見える保護者」についての背景や理由を考える。 ・グループの中で交代して記入していく。	・4人程度のグループで実施する。

3回の実習は、事前アンケート調査から、多くの保護者が気持ちを共感的に受け止めてほしいと回答していたことから設定したもので、このうちの「傾聴実習」は、教師が保護者の話を共感をもって聴くことを目的としている。「構成的グループエンカウンター実習」は、教師が親しみやすく受容的な雰囲気をつくるために、教師自身の「自己開示」「自己理解」「他者理解」を促進することを目的としている。「見方を変える・多面的に見る実習」は、保護者を一面的に理解するのではなく、多面的に見られるようにすることを目的としている（資料13・14・15）。

資料1の研究の計画に示したとおり、これらの校内研修会をほぼ1か月程度の間隔を空けて実施することで、教師がその学習成果を日常の教育活動での保護者との対応の様々な場面に生かしていくことを目指した。そして、このような取組が教師と保護者との信頼関係づくりにつながっていくと考えた。

ウ まとめ

「事前アンケート調査の報告」は、教師が保護者の信頼関係のとらえ方や教師への期待を改めて知り、考える機会となった。「傾聴実習」では、保護者を不安にさせるような態度や表情（非言語的なかかわり）が、その気持ちにいかに関与を与えるかということについて多くの教師が気付いていた。「構成的グループエンカウンター実習」では、他者の意見を肯定的に尊重していくことが親和的な雰囲気づくりにつながることや、そのような雰囲気においては、他者とのかかわりの中で自分の感情を素直に出せることを確認した。「見方を変える・多面的に見る実習」では、ともするとふだん自分の一方的な見方で子供や保護者の言動をきめつけてしまいがちであることや、実は相手の短所も見方を変えれば相手の良さとして見え、それを意識することが人間関係づくりにつながることを多くの教師が再認識した。

(3) 教師の意識の変容と日常の教育活動における取組

ア 実践記録の目的及び方法

校内研修会の成果を日常の保護者への対応に生かした実践の記録を、9月から11月の間、学級担任が「振り返りシート」に記録した。シートの内容は、「信頼関係を築くために教師が実行したこと」及び、それに対する「保護者の反応」「教師の感想」とした。また、「振り返りシート」の記述内容の考察を深めるために、必要に応じて抽出教師への聞き取り調査も実施した。

イ 振り返りシートより

(ア) 低学年担任A教諭の保護者への対応 - 見方を変えることの良さに気付く -

a 研修会前の教師のかかわり

子供が家庭学習をしないことについて心配し、注意はするが家庭での支援が少ないように見える保護者がいた。子供は学校生活において落ち着いて行動することが苦手であり、友達に対して乱暴に接してしまうこともあった。そのため、学級担任のA教諭は、本読みカードの担任記入欄を使って保護者に要望を伝えていた。

b 保護者を理解しようと教師が心掛ける

A教諭は第1回の校内研修会の傾聴実習を終え、「保護者も一生懸命に子育てをしているので話を丁寧に聴くことが大切だと思った。そうすることで教師側の話も受け入れてくれるのではないか。それが子供のために良い方法ではないか。」という感想を記述していた。これまでA教諭は、保護者に対して「～してください。」と指導的に助言をしてしまうことが多かったが、校内研修後、保護者が本当に困っていることは何かと考えながら、まずは保護者の話に耳を傾け、自らの心にゆとりをもって接することを心掛けた。

また、第3回の校内研修会では「自分はどうしても一方的な見方をしてしまう傾向が強いと思う。子供や保護者を様々な面から見ると本来もっている良さが見えてくるのが分かった。そしてそこに注目することで、保護者や子供を以前より理解することができる感じがした。」と感想を記述していた。研修後、保護者との対応の中で、保護者が子供の面倒を見ていないように見えることも、実は保護者自身が子供のころに親とのかかわりが少なかったという背景があるのではないかと考えるようになっていった。また、家庭学習の援助もA教諭と保護者が話し合い、実現可能な目標や具体的な援助内容を決めていくこととした。教師が保護者の気持ちに寄り添うことで保護者は安心し、子供に対して余裕をもって接するようになったようである。さらに学校で学習を補うようにしたところ、子供は学習に対する意欲が次第に増し、友達に対する乱暴な行動も減り、友人関係も良好となった。

c A教諭の取組から

A教諭は第3回の校内研修会の多面的に見る実習を通して、保護者をより深く理解しようと意識するようになった。また、他の教師の保護者に対する見方が大変参考になり、自分だけでは思い付かなかった見方を発見し、それを実際の対応の中に生かしていった。

A教諭の実践は、教師が保護者に対する見方を変えたことで、保護者が自分自身の子育てを否定されていないと感じ、安心して子供にかかわることができるようになり、その結果、子供に良い影響が及ぶことになったものと考えられる。

(イ) 低学年担任B教諭の保護者への対応 - 伝えることの重要性に気付く -

a 研修会前の教師のかかわり

学校で我が子が困っていることはないかと心配し、本読みカードの保護者記入欄や連絡帳に相談や質問、学校に対する要望を毎日のように記入してくる保護者がいた。学級担任のB教諭は、これまで、保護者が聞いてきたことについては、その都度答えるという対応をしてきたが、保護者の心配は治まらなかった。

b 伝えることを重視する

B教諭は第1回の校内研修会のアンケート調査報告を受けて、「保護者と教師

の思いには、やはりずれがあることを感じた。学校での子供の様子を教師が意識的に伝えていかなければならないと思った。」という感想を書いていた。「伝える」ことを求めている保護者が予想以上に多いことを知ったためであろう。

研修後、B教諭は今まで以上に保護者に対し子供の学校での様子を伝えることに努めた。前述の保護者にも質問や相談の返信だけでなく子供の様子を毎日できる限り本読みカードに記入して知らせるように心掛けた。授業中の活躍や良い表現も、学校で子供が失敗してしまったことも、その具体的な状況を説明した。さらには子供が自分の力で学習や生活面での課題を解決できたことや、そのときの周りの子供の反応などを丁寧に説明した。その後、保護者からは「お手数掛けました。ありがとうございました。」という返事が届くようになった。

第3回校内研修会の終了後、B教諭は「過剰な心配をする保護者というのは、見方を変えてみると、実はそれだけ子供の教育に熱心な証拠であるとも考えられることが分かった。」と感想を書いていた。このような見方を変えたかかわりで、保護者の質問や要望は少しずつ減少した。

c B教諭の取組から

教師は子供一人一人について、保護者に学校での様子を伝えていく必要がある。その際、B教諭は、ただ事実を伝えることだけでなく、保護者の気持ちに寄り添うような伝え方をすることが重要だと感じ、その点に配慮した。B教諭の取組は丁寧に子供の様子を伝えることで教師に対する保護者からの信頼が深まっていくことを示すものだと考える。

(ウ) 高学年担任C教諭の保護者への対応 - 聴くことの大切さに気付く -

a 研修会前の教師のかかわり

子供のことで不安なことがあると、学級担任に理由を伝えることなく子供を欠席させてしまう保護者がいた。C教諭は、その保護者や子供が、学校のことで何か悩んでいることがあるのではないかと心配し、欠席時には毎回保護者に電話で連絡を入れるようにしていた。

b 聴くことから始める

C教諭は第1回の校内研修会后に「自分の気持ちを受け入れてもらえると感じたとき、相手に話がしやすくなった。保護者の話を聴くときにこの実習の経験を是非生かしたい。」と感想を記入していた。「振り返りシート」にも「指導したいことがあったが、まずは保護者の話を聴くことから始めることにした。」と記述しており、日常の教育活動の中で聴くことを重視して対応するように心掛けた。

実際に第1回の校内研修会以降、当該児童が欠席したときの家庭訪問では、まず保護者の話を無条件で受け入れ、感情に寄り添うように丁寧に聴くことに努めた。その後、保護者からは「子育てについて悩んでいるので聴いてほしい。」と家庭訪問を依頼してくることが増え、次第にC教諭に対して打ち解けて話せる関係になり、教師からの助言も保護者が自然に受け入れるようになっていった。

c C教諭の取組から

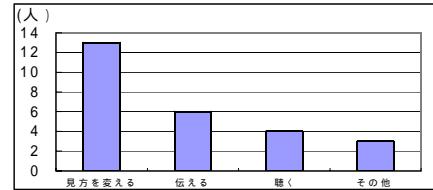
C教諭の取組は、保護者と接する場面で、まずはその気持ちを受け止めるようにして、聴くことを意識して相手をより深く理解しようとする、保護者も心を開くようになり、次第に信頼関係が築かれていくことを示すものと考えられる。

(4) 事後調査(11月)

ア 保護者との信頼関係に関する教師の振り返り

3回の校内研修会終了後2週間を経た11月下旬に、本研究の実践について、学級担任21人を対象に「研修会以前と意識が変わったことはどんなことか」を問うアンケート(自由記述)を実施した。資料16は教師が記述した回答を研修内容に関係するキーワードに着目し分類・整理したものである。出現の回数では「見方を変える」「伝える」「聴く」という順で多かった。資料17から19はその具体的な記述内容である。

【資料16】意識の変容にかかわる言葉
(学級担任21人、複数回答)



注)一人の教師の文章の中に複数の「行動」を表す「言葉」が出てきた場合それぞれ複数に分類している。

【資料17】「見方を変える」ことを意識した教師の感想

- ・保護者にこちらの思いが分かってもらえないと感じて、何度も何度も「～してください。」と一方的にお願いするのは効果がないと考えようになった。見方を変えて子供の良いところを伝えてみると、保護者も少しずつ心を開くのが分かるようになってきた。
- ・保護者を理解しようという気持ちで接するように心掛けている。保護者の立場から考えてみることが大切だと感じている。
- ・一つの枠組みだけで保護者を見ようとするのではなく、受容的な対応をしようと気をつけるようになった。
- ・保護者や子供のことを見方を変えてプラス思考で考えるということを意識するようになった。しかし、忙しさが邪魔をして良さを見つけることが難しいので、ゆとりをもって保護者や子供と接していきたいと思った。
- ・保護者や子供の良さを見つけるよう努力しようと心掛けている。
- ・保護者の気持ちになって考えられるようになってきた。

【資料18】「伝える」ことを意識した教師の感想

- ・子供が楽しく生き生きと過ごしていても保護者は何らかの不満をもつことがある。それを埋めるためにも本読みカードなどに子供の様子を丁寧に書くようにしている。保護者の協力が分かったときには感謝の気持ちを示すようにしている。
- ・保護者へ子供の良いところを伝えていく努力をしたいと思うようになった。
- ・保護者と話をする機会は自分の学級経営を理解してもらおうチャンス、子供の家庭での様子を知るチャンスと積極的に連絡をするようにしたい。
- ・学校から家庭に連絡をするのは信頼関係をつくる上で大事だと思う。

【資料19】「聴く」ことを意識した教師の感想

- ・保護者の話をなるべく内面まで聴くように努力するようになっている。
- ・傾聴しようという気持ちをもって保護者に接するようになったと思う。
- ・保護者の話をじっくり聴くように心掛けている。

イ 事後アンケート調査

11月下旬、学級担任21人に対し、7月に実施したアンケートの調査「保護者が子供のことで気になっていることや困っていることについて」を実施した。「とても思う」「少し思う」をプラス群、「あまり思わない」「思わない」をマイナス群として分けたところ、11月は7月に比べプラス群が微増していた(資料20)。しかし、校内研

修会の内容にかかわる3つの設問を見ると、プラス群の内訳では「とても思う」が減少し、「少し思う」が増えているという結果であった(資料21)。これは、各教師が、校内研修会で保護者の期待を知り、実習を通して「聴く」姿勢や対応の在り方を意識し始めたことで、自分を厳しく評価するようになったためではないかと考えられる。

また、調査の数値の上では大きな変化は見られなかったが、前述の自由記述のアンケートを見ると、多くの教師が自分自身の対応を変えていくことが大切であることを認識したようである(資料17・18・19)。

(5) 考察

ア 事前アンケート調査による実態把握

7月に事前アンケート調査を教師と保護者に実施した。保護者アンケートは母数が多く全学年を網羅しているため、教師と保護者の信頼関係の実態を知る上で有効であった。

アンケート調査の結果は、第1回の校内研修会の中で実習に先立ち報告した。保護者の考える信頼関係の実態や教師に対して期待することなどを事前に知ることによって、教師自身が今までの自分の保護者対応を振り返り、3回にわたる校内研修会の目的とその成果を日常に生かすことを認識する上で有効なものであった。

イ 信頼関係づくりのための校内研修会

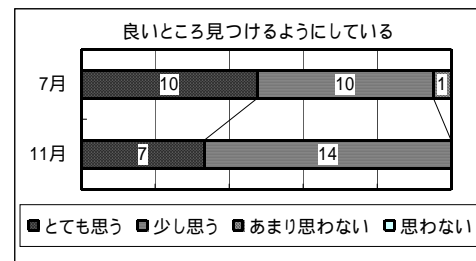
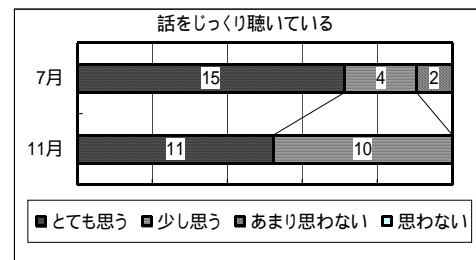
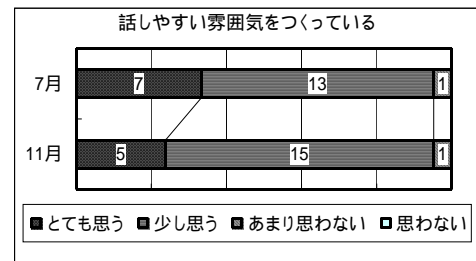
3回の校内研修会を1か月に1回の割合で実施してきた。実習の成果を教師が実際の保護者との対応で生かすことを考えると、一つの校内研修会を実施してからある程度の時間を経過して、次回の研修を実施する方法は、教師自身が自分の行ってきたこれまでの保護者への対応の仕方を振り返り、保護者理解を深めようという意識を根付かせていくために必要な時間をつくりだすものであったと思われる。

校内研修会の中では「見方を変える・多面的に見る実習」が教師の意識の変容に大きな影響を与えていたようである(資料16)。これは、教師が「事前アンケート調査の報告」を受け、「傾聴実習」や「構成的グループエンカウンター実習」で学んだこ

【資料20】 プラス群の数の比較
(学級担任21人) (人)

設 問	7月	11月
話しやすい雰囲気をつくっている。	20	20
話をじっくり聴いている。	19	21
気持ちを大切にしている。	20	21
困っていることを理解するようにしている。	19	21
良いところを見つけるようにしている。	20	21
解決に向けたアドバイスをしている。	15	18
保護者はあなたと話して満足している。	16	17

【資料21】 事後アンケート調査(4段階の比較) (学級担任21人) (人)



注)校内研修の内容にかかわる3つの設問。

とが素地となり、保護者をより深く理解する必要性を教師が明確に意識してきたためではないかと思われる。信頼関係を構築する要素は様々であるので、保護者理解に有効な複数の内容の研修を計画的に実施していく必要がある。

ウ 日常の教育活動における実践

前述した3人の教師の日常における保護者への対応では、教師が「見方を変える」や「伝える」ことを心掛けたことで、保護者の気持ちが安定し、それが子供の学校生活での落ち着きに結び付いた。また、「聴く」ことを心掛けたことで、保護者が自分の気持ちを受け入れられたと感じ、教師の意図することがより効果的に伝わるようになったという表れが見られた。このような教師からの働き掛けが積み重なっていくことで信頼関係はつくられていくと思われる。

保護者との対応を記録に残すことは時間を要することであったが、教師が自らの対応の課題や今後の在り方を見つめ、工夫するという点で有効であったと考えられる。

5 研究のまとめ

教師と保護者の間に信頼関係を築くためには、まず教師が保護者をより深く理解する必要があると考え「教師と保護者の信頼関係に関する意識調査」と「信頼関係づくりの校内研修会」を実施し、更にそこでの気付きや学習成果を、各教師が日常の場面に生かす取組を軸に研究を進めてきた。本報告書中の3人の教師の事例が示すように、この取組はねらいに即した一定の成果を得たと考える。

アンケート調査については、教師にとって、保護者や子供との対応において、相手がどのように感じているかを知ったり、また、振り返ったりする機会は必ずしも多くないことから、その調査結果を知ることで、個々の自己省察や意識改革につながったと思われる。

校内研修会については、現実場面に即した内容を体験的に学んだことが、その後の日常の場面での取組への動機付けを高めたと考える。また年齢や教職経験の異なる同僚の考え方や対応の仕方を参考にすることで、自らの取組へのヒントを得た教師も多く、実習を中心とした校内研修会の意義は大きいものがあった。

ところで、アンケート調査からは、保護者の教師に対する「自分の子供をしっかりと理解してほしい。」という切実な声が多く寄せられた。本研究では、主としてカウンセリングマインドを基盤とした保護者との個別の対応のスキルアップを目指したわけではあるが、実はこの教育の原点とも言われる「子供理解」が、保護者との信頼関係づくりでも基盤となることを、教師は課題として見過ごしてはならない。また、組織での対応という点も重要であろう。このことはアンケート調査でも、保護者と教師の双方が指摘していた。いわゆる抱え込みから教師間の連携や共通理解を大切にした支援が保護者との信頼関係づくりにも求められている。

本研究を通して、改めて教師と保護者の信頼関係は、子供支援の土台であることを実感した。今後は研究の成果を実践に結び付けるとともに、更なる研鑽に励みたい。